

コラム2

タイトルを見たとき、アイルランドがイギリスの支配から独立を勝ち取るための悲劇の戦いがテーマとは想像できなかった。

古き愛は恋人に 新しき愛は祖国アイルランドに
柔らかき風が谷間に吹き渡り 黄金色の麦の穂をゆらした
二人の絆を断ち切る言葉は 辛くて口に出せないが
それよりもなお辛いのは 異国の鎖に縛られる屈辱
それでも私は言う
山の谷間へ 夜明けに仲間を求めて行こう
柔らかな風が谷間を吹き渡り
黄金色の麦の穂をゆらした

これは若者がイギリス兵に殺された時、老人が若者の枕元で歌った詩である。アイルランドはイギリスからの侵攻を受けて植民地となってから長く独立への戦いの歴史を辿った。1922年独立戦争によってアイルランド自由国を建国したが、北部アイルランドがイギリスにとどまることや、イギリス国王を戴くことに抵抗する戦いは1949年イギリス連邦を脱退するまで続いた。最後に、デミアンがおくった恋人への言葉を記します。

愛するシネード
逃げようとした戦争に結局は身を投じ、
今はもう逃げるに逃げられない
僕らは何と不思議な国民だろう
君を愛しく思いだしている この最後の瞬間も
君の体とを“わが子には自由を”と願っていたね
その日を僕も願っている
だが、僕らが思うより遅いかもしれない

コラム3

題名から感じた内容は、ゆったりした平和な生活がテーマかなと思ったが、仲間同士で、しかも兄弟で殺し合う無残な哀しい物語であった。

1920年(大正9年)イギリスの支配を受けてきたアイルランドの独立戦争と、その後のアイルランド内戦を背景に、英愛条約をめぐる対立することになった実話である。不十分な体制の中でも英国軍を駆逐しようと従事した青年を中心に、アイルランド共和国軍が闘い講和条約が結ばれるが、そこから悲劇が始まった。

兄のテディは独立戦争を戦うリーダー格であり、弟のデ

ミアンには尊敬すべき兄であった。デミアンはイギリス軍のアイルランド人に対する暴力を目の当たりにし、ゲリラ戦に身を投じるようになった。その中ではやむを得ず告発した同郷人や友達を処刑し、身内を殺さないと前に進めない残酷な事態も発生した。しかし権力を持ち始めたテディは英軍と同じような行為をしはじめたために、デミアンは妥協を許せず、兄弟は対立する立場になった。

デミアンは、「誰と戦うかは簡単にわかるが、何のために戦うかは容易にわからない」という気持ちを常に持っていたが、最後は、兄テディが弟デミアンを処刑し、その刑死を告げに来たテディに、デミアンの妻は両のこぶしで胸をたたいて抗議する以外にできないことがない悲痛な心情には、やりきれない気持ちでいっぱいになった。

自衛のため、独立のため、家族を守るためというような理由から人は武器を取り、戦争が始まる。それは現在でも続いており、結果は「やった」「やられた」の連鎖である。誰も幸せにならない、みんな不幸になるのが戦争である、とつくづく感じられた映画であった。 S.N

コラム4

IRAに関する映画といえば、アイルランド出身のニール・ジョーダン監督、リーアム・ニーソン主演の『マイケル・コリンズ』(1996年)があります。マイケル・コリンズは、アイルランド独立運動を指揮し、英愛条約交渉ではアイルランド側の代表の一員などをつとめました。残念ながら図書館にはありませんが、『麦の穂をゆらす風』と合わせての鑑賞すると、アイルランド紛争について、より理解を深めることができると思います。

ニール・ジョーダンは、2005年制作の『プルートで朝食を』で、主演に『麦の穂をゆらす風』のキリアン・マーフィーを据えて、その養父にリーアム・ニーソンを配していました。『プルートで朝食を』は、激動のアイルランド現代史を背景に、女の子の心を持つ一人の青年の波乱の人生を軽妙なテンポで綴ったキッチュなドラマです。女装姿が板についていたキリアン・マーフィーが、次に演じたのが『麦の穂をゆらす風』のデミアン。私は、役者を追っかける楽しみを満喫しました。

英愛条約が調印された9年前に、タイタニック号が氷山に衝突し沈没しました。ジェームズ・キャメロン監督の『タイタニック』(1997年)では、アメリカへの移住に希望をつなぐ、3等客船でのアイリッシュ・ミュージックが印象的でした。ベルファストで建造されたタイタニック号の沈没がアイルランドの独立運動に影響を与えた、とはどこにも書いてありませんが、つい、繋げてみたくなります。 e3



コラム1

美しいアイルランドの風景を背景に、哀切極まりない物語が展開されます。大切な人を殺された悲しみから復讐にかられ、気づいた時には殺し殺される報復の連鎖から抜け出せなくなり、やがては敵に向けられていたはずの銃口が、最初は戦う原因だったはずの「守るべき大切な人」その人に向けられていく。深い緑の草原、石づくりの民家、ツイードのジャケットにハンチング、パブやホッケーといったアイルランドの風物の映像が、詩的になればなるほど物語の残酷さが増していきます。

「ユーモア」「救い」「癒し」「感傷」「面白さ」をそぎ落とし、「回答のしようのないシビアな問題」を突き付け、「その時、あなたならどうする?」を問い詰める重い場面の連続の作品です。私は鑑賞後、しばらく凹んでいました。しかし考えてみれば、世界の歴史は、この映画の中で起こったような悲劇も積み重ねながら現在に繋がっており、これからも繋がっていくであろうことは否定できず、辛くても見ておかなければならない映画かもしれないと思い直しました。

英国人であるケン・ローチ監督が、英国人の横暴で非情な侵略をこれほどまでに見事に作品にし得たこと、そしてその製作に、英国が名を連ねていることに驚き、敬意を表する気持ちになりました。この作品のタイトル『麦の穂をゆらす風』は、アイルランドで歌い継がれてきた抵抗のシンボルとも言える伝承の曲名だということです。ケン・ローチ監督がこの曲の歌詞に添って、忠実に作品を展開していったことがうかがえました。曲の冒頭部分の歌詞を引用します。



りぶらサポータープロジェクト 「シネマ・ド・りぶら」
『麦の穂をゆらす風』 関連図書案内
& DVD

作品・監督

778.2 ケン・ローチ
ジェネオンエンタテインメント
『ブレッド & ローズ』

778.2 ケン・ローチ
ジェネオンエンタテインメント
『マイ・ネーム・イズ・ジョー』

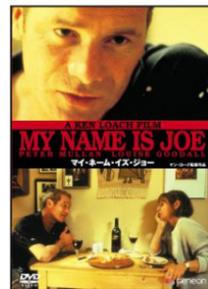
N 778.0 木下 昌明 影書房
『映画がたたかうとき』

N 778.0 板倉 巖一郎 松柏社
『映画でわかるイギリス文化入門』

G 293.3 下楠 昌哉 三修社
『イギリス文化入門』

778.2 大串 夏身 青弓社
『DVD 映画で楽しむ世界史』

N 778.0 吉野 朔実 エクスナレッジ
『シネコン 111 吉野朔実のシネマガイド』



アイルランドの文化

293.3 佐藤 亨 新評論
『異邦のふるさと「アイルランド」』

302.3 海老島 均 明石書店
『アイルランドを知るための 70 章』

302.3 宗形 美樹 鳥影社
『アイルランドがわかる本』

I 293.3 林 景一 角川書店
『アイルランドを知られば日本がわかる』

G 293.3 ECG 編集室 トラベルジャーナル
『アイルランド パブとギネスと音楽と』

G 293.3 白井 哲也 千早書房
『パブは楽しい』



紛争と独立の歴史

233.0 武藤 浩史 慶応義塾大学出版会
『愛と戦いのイギリス文化史
— 1900 - 1950 年』

233.8 鈴木 良平 彩流社
『IRA(アイルランド共和国軍)』

233.8 ポール・アーサー 彩流社
『北アイルランド現代史 紛争から和平へ』

233.9 森 ありさ 論創社
『アイルランド独立運動史』

233.9 鈴木 良平 丸善ライブラリー
『アイルランド問題とは何か』

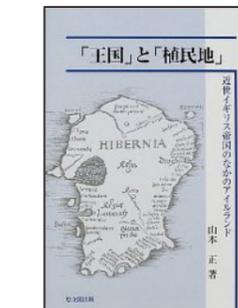
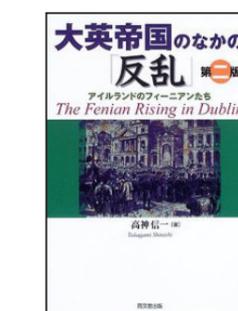
233.9 鈴木 良平 彩流社
『アイルランド建国の英雄たち』

233.9 高神 信一 同文館出版
『大英帝国のなかの「反乱」』

233.9 山本 正 思文閣出版
『「王国」と「植民地」』

302.3 一木 久生 作品社
『ピースライン 北アイルランドは、今』

302.3 尹 慧瑛 法政大学出版局
『暴力と和解のあいだ』



アイルランドの旅

G 293.3 武部 好伸 彩流社
『アイルランド「ケルト」紀行 エリンの地を』

G 293.3 武部 好伸 彩流社
『北アイルランド「ケルト」紀行 アルスター』

